１人１台端末の活用による実践事例

（小・中学校）

学校名	津山市立喬松小学校	実践者名	國貞　智宏
教科等	総合的な学習の時間	学年	第５・６学年
		授業活用段階（岡山県版）	Stage２
育成したい資質・能力	目的に応じて情報収集をする。 友達と共同編集をしながら役割を持って活動する。 SDGｓについて理解を深める。		
単元・内容等	「SDGs～わたしたちにできること～」 修学旅行で SDGs 体験を行う導入として本活動を行った。各班で SDGs とは何か、誰が何のために取り組むのか、自分たちにできる SDGs は何があるかについて調べ、発表を行った。		
児童生徒の実態（端末活用頻度等）	端末活用について、昨年度「ICT を活用した授業づくり」を研究主題として、共同編集による資料作り等を行ってきた。（週２～３回程度）		

活用の概要（使用アプリ名を含む）

(1)めあてをつかむ。

めあて　SDGs とは何かを調べて、自分ができることを見つけよう

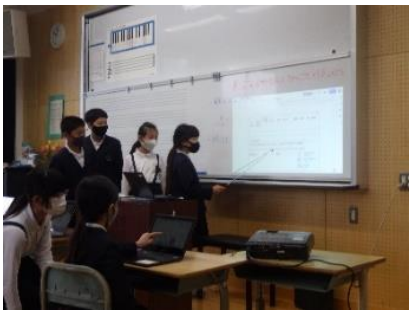
・Classroom に、各グループのドキュメントのリンクを貼り、アクセスできるようにする。

(2)グループ内で分担し、Web 検索で SDGｓとは何かを調べて、ドキュメントにまとめる。
・見る人に分かりやすいように、図や写真も挿入する。

(3)自分たちにできる SDGs を考える。
・目標項目 17 の内、自分にできることを考え入力する。

(4)班ごとに発表をする。

(5)まとめと振り返りをする。



実践者の手ごたえ	児童生徒の振り返りや反応等
ドキュメントを使い共同編集をしたことで、自分たちで役割分担を考え、待ち時間なく自分の調べたことや意見を反映することができた。また、SDGs とは何かを一方的に伝え、学習を進めていくのではなく、児童の調べ学習を通して明確にしていくことで、理解を深めることができた。また、自分たちにできる SDGs についても考えさせることで、自分事として捉えさせることができた。	（児童の振り返り） 「端末を活用したことで、役割分担を行って効率的に学習を進めることができた。」 「SDGs には、17 個も目標があることが分かった。」 「2030 年までに自分たちも入れて、世界中の人が達成する目標なのが分かった。」 「自分たちにもできる SDGs について考えることができた。」